



～共に、学び・高め・支え合い、  
一人一人の心の中に「ふるさと入間野小」を育む学校～

狭山市立入間野小学校

学校だより

令和7年1月号

☎04-2958-2718



# いるまの

<学校教育目標>

- ・仲よくする子
- ・考える子
- ・やりぬく子



## 2025年のはじまりです

校長 宮原 <sup>ひろのり</sup> 礼典



新年、あけましておめでとうございます。新しい年の幕開けです。今年は巳年。一般的にはマイナスイメージがあるへびですが、昔からお米や野菜など穀物の神様と言われたり、金運をもたらす神様と言われたりして、神聖な生き物とされてきました。また、逞しい生命力があり、脱皮をする度に表面の傷を治していくことから、医療、治療、再生のシンボルとされています。へびのように、日々の経験を通して新たな自分へとバージョンアップし、成長していく一年となることを祈っています。

正月の恒例行事となった「第101回東京箱根間往復大学駅伝競走」では青山学院大学が連覇を果たし、駒澤大学が2着、大学駅伝3冠を狙った國學院大学は3着となり、幕を閉じました。各校のエース達がしのぎを削る「花の2区」の特番を見たのですが、襷を繋いだ後、選手達が各々集い、握手をしながら談笑している場面を目にしました。レースではライバルでも走り終えたらお互いの健闘を称え合う姿に胸が熱くなりました。また、ある4年生選手は「あ～箱根駅伝が終わっちゃった…。あっという間だったなあ」と涙ながらに語っている姿に、その選手がどれだけの努力と時間費やして箱根駅伝に懸けてきたのかを感じ、心を打たれました。優勝した青山学院大学は3日の夜が1年間で唯一、寮でお酒の飲める日なのだそうです。それ以外の日は次の大会・次の箱根駅伝に向けて、朝5時30分から練習を始めているそうです。今年が、子供たち、そして私達にとって「何かに懸ける一年」になれば幸いです。



1月8日。暖かな日差しの中ではありませんでしたが寒さの厳しい朝でした。2週間ぶりに会う子供たちは元気な朝のあいさつを返してくれました。校舎にも子供たちの声が溢れ、学校が活気づくのを感じました。始業式。朝からストーブを焚いて暖を取っていたとはいえ、底冷えの厳しい体育館でしたが、子供たちは開式の時間が迫ると自然と口を結び、体育館に静寂が訪れました。新しい年、まとめの学期に向けて気持ちが入っている様子が伺えました。式中でも寒さに負けず私の話に顔を上げ、相槌を打ちながらとても立派な態度で聞いている姿に今年の意気込みを感じました。いよいよ一年間のまとめの3学期です。次の学年への0学期とも言われますが、子供たちの態度を見て大きな成長を期待したいと思います。

昨年は元旦に「能登半島地震」が起こり、不安な年明けとなりました。今年は穏やかな年明けとなり胸をなで下ろしているところではありますが、被災地では未だ震災の爪痕が残っている状態です。被災された方々が一日も早く心穏やかに過ごせる日常が戻ることを心からお祈りいたします。